

# 知的障害教育部門 高等部

## 研究テーマ

### 「将来の生活に必要な力を育むために」 ～アセスメントを活用した授業づくり～

## 1 研究の目的と方法

知的障害教育部門高等部では、卒業後の生活を見据え、将来の自立に向けて必要な力を育むための授業づくりに取り組んできた。研究のまとめとなる今年度は、作業学習や専門教科をとおした研究に取り組んだ。また、主体的な姿を育むために、4つの視点を取り入れて仮説をたてた。

### 【学部研究仮説】

実態把握を的確に行い、それに応じた活動内容の提示や教材・教具、環境設定の工夫をしながら①「取り組もうとする気持ち」、②「活動内容を理解する力」、③「自ら考えて、判断する力」、④「コミュニケーション力」を育てることで、将来の生活につながる主体的な姿が増えるであろう

### <研究の方法>

#### 実態把握

- ・行動観察
- ・発達検査等の分析
- ・職場実習の課題分析

#### 授業改善

- ・作業段階評価表の活用
- ・チェックリスト活用
- ・有効な手立ての共有

#### 般化

- ・職場実習での評価
- ・他の場面での取り組み
- ・家庭との連携

## 2 研究の実際（1～3学年 作業学習 MG サービスグループ）

### （1）対象生徒の実態等 と グループの研究仮説

#### 【実態】

- ・WISCⅢ知能検査より  
→視覚的な支援が有効であろうと思われる
- ・作業段階評価表より  
→言葉遣い、時間の理解、集中力の持続に課題

#### 【職場実習の課題】

- ・場に応じた行動
- ・丁寧な言葉遣い
- ・作業準備と後片付け
- ・集中力の維持  
(就労アセスメントより)

#### 【主体的な姿】

- ・一定の時間、集中して作業に取り組む。
- ・わかっていることは指示を聞かなくても自分で行動する。



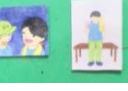
### 【研究仮説】

対象生徒 F は、休憩をとらずに作業を継続したが、そのことで集中力が散漫になりやすい生徒である。休憩の大切さをイラスト等で分かりやすく伝え、実習園にいる間の作業と休憩のスケジュールを明確に伝え見通しをもたせることで、時間のメリハリが付き、集中力が維持する力が育つだろう。

### 【検証方法】

- ・休憩後の仕事の効率が、休憩直前の状態よりどのように変化したか調べる
- ・休憩後の作業量を記録し、グラフ化したりする。
- ・ビデオ撮影して分析する。
- ・6、7月の実態と、9、10月の実態を比較する。(作業学習段階評価表)

## (2) 実践経過

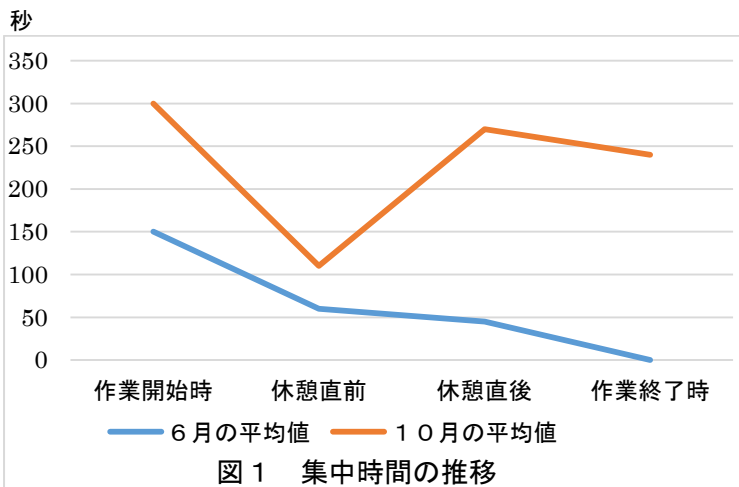
	手だて(改善点)	生徒の様子(主体的な姿)
改善前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度使用していた「予定確認ボード」をそのまま提示する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業時間と休憩時間の区別なく働きたがる。疲れると、否定的な内容のつぶやきが多くなり集中が散漫になる。</li> <li>・席を立つ時や席に戻る時に、身体的補助を要した。</li> </ul>
改善①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目で見えてわかるように、休憩時間になったら畑に休憩フラッグを設置した。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩時間に体を休めることができ、仕事の話や否定的な話をする事はなくなった。</li> <li>・席を立つ時や席に戻る時に、支援を要することが減った。</li> </ul>
改善②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩の大切さを講義し、休憩時間にすることを具体的に絵カードで提示し、自分で選ぶようにした。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩時間になると自分でお茶汲みの仕事を率先してするようになった。→<b>主体的な姿</b></li> <li>・休憩を十分にとるようになってから、集中して仕事に取り組む時間が延び、効率があがった。</li> </ul>

### 【職場実習の評価】(就労継続支援B型)

- ・前期実習では作業中に突然大きな声で笑ったり、私語が多かったりしたが、後期はそのような場面はほとんどなくなり、集中して作業に取り組む時間が延びた。
- ・休憩時には他の利用者と一緒に別室で休み、作業種が変更になっても混乱することなくスムーズに取り組めた。
- ・作業が終わった時に、「できました」と自分から報告することが増えた。

課題が改善された！

## (3) 結果と考察・課題



左記の結果より、休憩をしっかりとることで、集中して作業に取り組む時間が確実に伸びたことから、仮説は立証されたといえる。実習先での評価からも課題点の改善が見られた。今後に向けては、より詳細な実態把握の方法を検討し、就労先のニーズを把握しながら支援にあたっていきたい。



## 3 研究の成果と課題

【成果】 ○4つの視点に基づいた有効な手立ての共有

○実態把握表やチェックリストの活用

・行動観察法と発達検査の分析 ・作業学習段階表の活用 等

○職場実習との関連 ・実習での課題分析、作業学習や専門教科での実践

【課題】 ○卒業後の自立につなげるために

・人との関わりの拡大 ・自己有用感の体得 ・目的意識と自己評価の工夫

・場面が変わった時の般化方法 ・就労先のニーズの把握と連携